



白熱した木札の取り合い!!
～利尻富士町カルタ大会 より～

議会だより



定例会12月会議

平成26年度一般会計などの補正予算を可決	2～3
3人の議員が一般質問	4～7
行政報告 利尻空港の利用状況など	4件
	7

平成27年3月

NO 166

定例会12月会議

定例会12月会議は、12月12日に開催されました。

本会議では、3人の議員が一般質問を行い、町長から専決処分の承認をもとめること、条例の一部改正、一般会計ほか2特別会計の補正予算などが提案され、慎重な審議の結果、いずれも原案のとおり承認・可決しました。

補正予算の主な内容

会計名	補正予算額	補正後の総額
一般会計	7309万8千円減額	39億8684万円
温泉事業特別会計	33万3千円追加	7105万7千円
歯科施設特別会計	168万4千円追加	5757万6千円

- 生活交通路線維持補助金（宗谷バスへの補助）・・・550万円追加
- 低所得者燃料購入費軽減扶助費（福祉灯油）・・・160万円追加
- ふるさと利尻富士応援寄附金の積立・・・700万円追加
- 輸送費支援事業補助金・・・200万円追加
- 温泉保養施設マッサージチェア購入・・・36万6千円追加

質 疑

Q 米谷議員 ペシ岬地区散策道検討調査が終わったと思われるが、この調査結果は。

A 産業建設課長 調査結果につきましては、露岩部については著しく風化作用が発達しており、無数の亀裂もあり

浮石状態の部分も見られ、また、土砂部においても剥離した岩盤の移動に伴う亀裂や陥没、そして表面浸食による崩壊箇所も見られるとの事です。

今後はさらに風化も進み、浮石の崩落や降雨等による岩盤部の根足が浸食され大きな崩壊につながることも懸念され

Q 戸嶋議員 公営住宅長寿命化事業について、現在老朽化した公営住宅の解体や修繕等が進められているが解体後の用地利用等について知らせていただきたい。

A 産業建設課長 解体後の跡地利用については様々な考案がありますが、具体的なことはこの場で述べることはできませんので、ご理解いただきたい。

るとい調査結果であります。今後どのようにすれば良いのか検討しましたが、崩れている露岩部等の箇所はその下に遊歩道が配置されている関係で、不安定な石類は安定する勾配で法を切り、根固工を設置して天端に防護柵等を設置し、歩道を付けていく方法があります。ペシ岬の本体は断崖絶壁ということで落石の恐れも非常に大きく、落石防護壁により石が飛ばないようにすることもでき、また既存の歩道、階段、手すり等も老朽化が進んでいる関係から改修について見積もったところ概略で億単位の費用が必要になり、相当事業費が膨らむという調査結果を受けております。

Q 飯田議員 生活路線維持補助金の関係で、同僚議員からの一般質問で宗谷バスとしての取り組み、利用者減に対する車の小型化などを会社側に要請していると答弁されたが、今年度も申請時にそのような話があったのか。

A 総務課長 バスの小型化については、小型車両を導入する際には離島に最初に入りたいという意向も聞いていますし、乗り降りのしやすい低床バスの話も含めて伺っています。

Q 飯田議員 低所得者燃料購入費軽減扶助費について支給額、対象件数をお知らせ願いたい。

A 福祉課長 いわゆる福祉灯油の関係ですが、対象は65歳以上の老人世帯、母子世帯、要保護世帯、また民生児童委員協議会において低所得者と認定された世帯等から20世帯を選定し支給しています。金額は今まで2万円でしたが、本年度は燃油価格も高止まりしており、また電気料金も再値上げされていること等も踏まえ、低所得者世帯における燃料費の経済的負担を軽減す

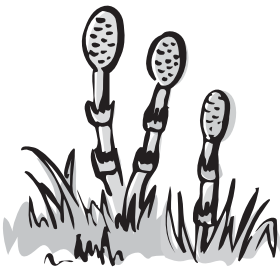
るため2万5千円に引き上げ
ております。また、その他町
長が別に定める世帯に対する
支給という要件に則り、12月
1日現在の灯油価格が100
円を超える場合は1万円を支
給していますが、先程と同じ
理由により100世帯の方々
に1万5千円を支給する予定
です。なお、冬期間不在の方
には支給しません。

ます。全域的な把握は難しい
と思っておりますが、夏の調査
でも同じことを聞いています
ので、このまま昆布が育成さ
ればヨレモクの群落も縮ん
でくれるのではと期待してい
ます。これから組合と話をし
ていく中で様々な駆除対策を
協議し詳しい打合せをしながら
対策を実施したいと考えて
います。

Q 飯田議員 離島漁業再生
支援交付金が減額補正されて
いるが、現時点での進捗状況
を知らせてほしい。また、ヨ
レモク対策については随分要
望があがっていると思うが、
その取り組みと今後の方針は。

Q 再質疑 これから新年度
予算を編成する段階で、組合
から離島漁業再生支援交付金
事業の内容的なものも出てく
ると思いますが、この交付金
事業の最大の目的であります
漁業の再生が図られるように
交付金の最大限の活用を目指
して、浜にも汗を流してもら
い、組合にも知恵を出しても
らいながら積極的な係わりを
推進していただきたいと思っ
ています。

A 産業建設課長 離島漁業
再生支援交付金の実施状況で
すが、届いている報告書ペー
スでは40%くらいの進捗と把
握しています。ただ、年間を
通して実施する事業や追跡調
査を必要とする事業もありま
すので、実際の進捗率はまだ
上がっていると思います。ヨ
レモク対策の件ですが、先日
の清川地区の潜水調査では、
昆布の育成が良くヨレモクが
昆布の陰になり大きく育って
いない場所もあると聞いてい



専決処分

▽専決処分（平成26年度一般
会計補正予算(第3号)）の承
認を求めることについて

〔内容〕

衆議院の解散に伴い衆議院
議員総選挙の費用に関わる補
正予算、歳入歳出それぞれ4
49万円を追加することを、
平成26年11月27日に専決処分
したもの。

原案承認

条例改正

▽利尻富士町国民健康保険条
例の一部改正について

〔改正点〕

健康保険法施行令等の一部
を改正する政令が公布された
ことに伴う一部改正。出産育
児一時金39万円を40万4千円
に改める。

原案可決

報 告

▽教育に関する事務の管理及
び執行の状況の点検及び評価
の報告

〔内容〕

地方教育行政の組織及び運
営に関する法律の規定に基づ
き、平成25年度の教育行政執
行方針の施策に基づいた学校
教育、社会教育の事業の実施
施策の点検・評価が議会に報
告されました。

意見書

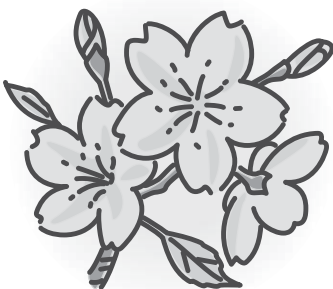
※次の意見書は、定例会12月
会議で原案のとおり可決し、
関係行政庁へ送付しました。
◎日口フェリー定期航路の存
続に関する意見書

箇所が24箇所存在し、そのす
べての箇所に人家等が存在す
る憂慮すべき地形となってい
る。当委員会では記録的大雨
発生から2ヶ月を経過した雄
忠志内6号砂防ダム、アフト
ロマナイ1号導流堤外3施設
の状況調査を行い、大雨によ
る多量の土砂堆積を想定して
いたが、関係機関の速やかな
対応により一定の排土等が済
んでおり、これらの配慮に対
し謝意を表します。
今後においても町並びに関
係機関には土石流対策施設や
急傾斜地崩壊防止施設のハー
ド対策を連携して整備促進し、
特に町には土砂災害等危険箇
所、避難基準、住民に求める
行動等の指針等を作成公表す
るなどソフト対策を適切に組
み合わせた総合的な土砂災害
対策を要望します。

委員会レポート

平成26年10月24日開催
総務民教産建常任委員会

土砂災害危険箇所等状況調査
町内には急傾斜地崩壊危険
箇所22箇所、土石流危険渓流



定例会12月会議 一般質問

12月12日開催の定例会12月会議において、3名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

観光産業の開発について



安楽昌弘 議員

安楽議員 観光客が激減

していることは新聞紙上でも報道されており、利札航路の利用実績によると4月から9月までの上半期だけで37万1千人余りで、前年同期と比べ4万人以上の大きな減少となっているとの事であり、この要因は種々あるうと思えます。この減少数は勿論観光客だけの数ではありませんが、団体ツアー客が伸び悩んでいることから受入れ側としてみれば観光客の絶対数が減少していることは否めない事実であります。故にハードランドフェリー(株)では来年の観光シーズンに向け稚内市をはじめ利札3町と連携し集客強化を図っていきたくは思いますが、その一環として我が町独自でも以前から懸案となつております「観光産業の開発」

を今考えて行く時期ではないでしょうか。そこで、定例会3月会議において同僚議員の総括質疑の内容について私も共鳴した部分があります。それは、旧本泊小学校校舎の再利用による体験型(例えばウニの採取体験、ミニ水族館の設置等)の観光産業の開発を町として実現できないか、町と施設を管理する教育委員会が一体となり漁協や観光関係団体、町民代表等との検討など話し合いの場をつくり前向きに取組んでいく考えはないか町長の所信を伺います。

町長

平成26年度上期の観光客入込数は12万3200人で対前年8.8%の減少という状況であり、今後の観光振興に期待をしておりますが、残念な結果でありました。こうした減少傾向に対し、町や観光協会では施設整備やアイデアを出しながら様々な誘致対策を講じてきました。町長に就任してから一年経ちますが、町外の様々な方々から魅力ある島、魅力ある観光地、

行つてみたい島の上位に利尻島は常にランクされていると聞きます。魅力とは何なのか、観光客を含めて人を集める魅力ある島とは何なのか、また利尻昆布とウニのブランド力は相当なものであるとも聞きますので、集客につなげるために洗い出しをしてみたいと考えています。私も漁業と観光が一体となれば支援したいと以前より申し上げておりますし、漁協・漁業者・観光関連業者、町も意見を出し合いながら一体となる苦勞をしなければ難しいものと思っております。漁業、観光が元氣になれば町の経済に良い影響が出ることは必然でありますので、校舎の利用について具体的な例も述べていただいています。他に何か方法はあるのかも含めて検討し利活用に向けて進めてまいりたい。

再質問

私は一時的な思い付きではなく色々な思いがあり質問させていただきました。議会報告・意見交換会の中にも観光業について意見を求められておりますし、鴛泊中学校学校祭の中でも3年生が「利尻島の観光産業を考える」

をテーマに様々な学習をし発表されています。また最近「観光産業」ならぬ「産業観光」という言葉も耳にすることがあります。地元の産業を観光に活かそうということでテレビでも放送されていますが、我が町は漁業が主産業であることから漁業を観光に結び付けることが一番取り組みやすいのではないのでしょうか。「海の駅おしどまり」が完成し、利尻島の玄関口としてイメージアップし利便性が良くなりましたが、もっと観光客の利用拡大を図ることが重要な課題でもあると感じています。町長の更なる思いがあれば再度お聞かせ願いたい。

町長

安楽議員の思いということでは、本泊小学校の校舎の件だと思っておりますが、校舎を観光産業支援のために使うのか、または漁業支援のために使うのか、または今地方創生と言われる中で雇用拡大等のために使うのか色々な考えがあるうかと思えます。これから総合戦略的な計画を図る中で校舎の利活用を考えていきたいと思っております。更なる思いがあればというこ

とですが、職員はじめ多くの方々からの様々なアイデアを出していただきながら、島の発展に結び付けていきたいと考えています。

再々質問 本泊小学校は年数を経過することに老朽化しており再利用を図るには今がタイムリミットと思います。今後の再利用について校舎管理している教育長の考えを聞かせていただきたい。

教育長 利用方法ということでは、職員ともども考えてきました。これといったアイデアもないまま今に至っています。現在は、鬼脇地区の小中併置校建設の計画もあり、建設となれば本泊小学校に備品、教材等の一時保管ということも考えなければなりません。これらを考慮しながら、また地方創生ということが謳われておりますので色々な方にアイデアを出していただき参考にしながら再利用について考えていきたいと思っています。

利尻高校への学校給食 取り入れについて



佐々木 勝 議員

佐々木議員 昨今、利尻高校生の保護者より、島内の小・中学校へ配給している給食を高校へも取り入れができないものかという声が多数聞かれます。私も保護者の方より直接聞かれたことがありますが、両親の共稼ぎが多くなってきた今、朝の弁当作りが大変負担になるということで、特に6月から8月までの養殖・天然昆布の盛漁期には保護者が弁当を作る時間もなく、パン・牛乳を昼食にする生徒も多くみられるようで、これでは成長期における栄養のバランスが非常に悪いのではないかと考えられるところ

です。最近では食の大切さというものが叫ばれ、バランスよく食べなければ健全な発育の阻害や学習意欲の低下等に

もつながるとの指摘もあり、また大人だけでなく子供たちの間にも生活習慣病或いは生活習慣病予備軍が増えているとも言われています。学校給食組合は両町で構成する一部事務組合であること。高校は義務教育ではないこと。小・中学生と高校生ではカロリー・バランスが違うこと。給食料の問題等々、整理しなければならぬ課題は決して少なくないとは思いますが、地域の子供たちが地元の学校に通うメリットを作り出すためにも高校への学校給食の取り入れができないか町としての方針を町長にお尋ねします。

町長 学校給食は学校給食法により義務教育諸学校に押し実施されるもので、本町は利尻町と一部事務組合を設立して実施しており、利尻富士町、利尻町、学校給食組合と3つの地方公共団体があり、またそれぞれの議会もあることを踏まえて利尻富士町長としての現時点での考えを答弁

いたします。あくまでも仮の話ですが、利尻高校に給食を実施するとすれば現給食センターの規模は600食を調理できる施設であり、現況では島内小中学校へ441食を提供しているということで、現在の利尻高校生は93人、教職員26人で計119人ですから給食センターでは余裕があります。次に経費の件では、小中学生からは給食料として給食材料分しかいただいておりません。給食料として小学生月額3650円、中学生月額4460円であり、調理員の人件費、配送車両、調理場に係る消耗品、燃料費、光熱水費、食器等は両町の負担です。義務教育ということで両町が負担していますが、高校になるとどうするかという問題が発生します。小中学生の一日の摂取カロリーは基準があります。高校生の場合はどうなのかという問題もあります。また、栄養士は道職員のため道としてどうなのか、高校側の考え、利尻町の対応などといった様々な諸問題が想定されるところです。私としては利尻町長にも声掛けしながら利尻富士町、利尻町、

学校給食組合で協議の場を設け問題や課題を整理し結論を出すべきものと考えています。ただし、行政側だけで話を進めるべきではないと思います。保護者、生徒、高校側などに判断材料を示し、また、意見を聞きながら進めていくべきものと思っております。次第であり、あくまでも利尻富士町長としての考えでありますのでご理解賜りたい。

再質問 高校からの資料によると、管内では豊富高校と浜頓別高校が給食を取り入れているようです。給食の対象者は希望者のみですが、9割程度希望しているとの事ですが、1番ネックになると思われる給食費は豊富高校が1食309円、浜頓別高校は1食264円だそう。金額の差は牛乳が付くか付かないかです。どの程度の給食費になるかはわかりませんが、町長は前向きに考えているようですので、是非保護者のためではなく、子ども達のために栄養バランス、或いは今問題になっている食中毒の問題等もありませんので、安全を考えながら実行していただきたい。(答弁不要)

湾内モトリヤウシナイ沢ダムの

耐久性・安全性の検証としっかりとした

ダム機能による地域の安全性について



長岡 俊裕 議員

長岡議員 近年、世界の

気象状況は地球温暖化と連動するかのようになり、火山活動・地震・津波など地殻変動の自然災害、台風・低気圧・干ばつ・寒波・長雨・集中豪雨・大雪などの天候型の自然災害など、大きな災害が地球規模で頻りに起こり、爆弾低気圧やゲリラ豪雨といった新しい言葉も生まれました。天候型の自然災害では、昨年10月伊豆大島での台風による長雨・集中豪雨で山間地が土石流となつて人家を呑み込み、人や建物の多くが犠牲となりました。また、今年8月には広島県でも長雨・集中豪雨で山肌が崩落し多くの方々が命を落とし、多くの家屋を失いまし

た。そして1週間後には、礼文島で集中豪雨による裏山が崩落して家屋が倒壊し2名の尊い命を奪いました。また、桃岩トンネル入り口でも斜面が崩落し、大きな経済的損失があつたことは記憶に新しいところでもあります。そこで、この利尻富士町の雨による災害に目を向けますと、平成11年に通称サツカイシ（現湾内覆道）で、長雨・集中豪雨により山肌が崩落して道道を塞ぎ、1ヶ月近く道路規制が布かれましました。また、平成18年には集中豪雨により鬼脇地区の3つの沢と雄忠志内の沢で土石流や鉄砲水が発生して、人的被害は無かつたものの水産被害や砂防ダムが埋まつたことによつて大きな経済損失をもたらしましました。今、利尻富士町で土砂災害危険の可能性がある地域で湾内地区には9か所15基のダムという形態になつており、その中でモトリヤウシナイ川下流には10世

帯21人が生活をしており、その沢には4基のダムが存在し、その工期は昭和33年から37年にかけて造られ、全てが50年以上を経過しております。昔の工法や現在の気象状況を加味したとき、地域の人々の生命と財産を守るために、ダムの耐久性・安全性、ダム機能による地域の安心性を検証する必要がありますと考えます。行政として一刻も早く関係機関にダムの耐久性・安全性の調査を求め、必要に応じては、より安全なダムの構築を求めべきと思ひますが町長の所見を求めます。

町長 近年、自然災害が

起こる頻度が多くなり、人的被害や経済損失をもたらし、国全体を挙げての対策が急務になつています。本町は利尻山という山を有している関係から、土石流の危険渓流として24箇所、急傾斜地崩壊危険箇所が22箇所あります。これ

らの危険箇所からの土石・土砂から住民の生命財産を守ることは国・道・町の責務であり国の機関や北海道で設置した治山ダムや砂防ダム、床固工などを整備しています。モトリヤウシナイ川ダムの耐久性・安全性の検証等については、管理は宗谷森林管理署であり、施設は床固工が計4基設置され52年から56年の経過年数となっております。点検は目視確認で今年度は7月下旬と10月下旬に森林管理署治山事務所で行つており、また設計コンサルへの委託による目視点検も平成25年に行つております。管理者の目視確認ではコンクリートの亀裂、劣化等もなし、土石等の堆積もなし、沢の中の植生等の状態並びに川底の土砂や土石等の状態も良好であるとの点検結果の報告を受けています。工法の関係につきましては、設置後50年以上経過していることもあり、近年の異常な大雨による気象を加味しての検証については設計会社の話では、工法等については治山技術基準により定められていることもあり、改定等はあるものも基本となる考えは現在も変わ

っていないということであります。また、治山施設等を設計する上では、過去の降水量の観測データから100年といたつた長い期間に1回稀な大雨も想定しているとの事であり、治山施設のコンクリートの耐用年数は一般的に100年と言われています。現況では、森林管理署による目視確認では良好とのことでありますが、住民の方々にとっては近年の異常気象、全国で発生している土砂・土石流災害を目の当たりにしますと想定外といったことは許されませんので、日頃から町職員も目視調査を行つていますが、より一層管理者に情報提供や耐久性などの検証を求め、連携しながら住民の生命財産を守つていきたいと考えています。

再質問 住民の生命と財産

を守るために、関係機関にしっかりとした、目視ではなくはつきりとしたデータを出せる調査をしていただきたいと思ひます。大きな地球の変化があり日本中、世界中で大雨、集中豪雨という大変な災害が起きてくる状況です。これから先を考えた場合、今の時点

でダムとしては安全かも知れないが、危険性をはらんでいることも理解していただきたい。その中で、昭和62年から湾内地区の裏山の木を多く切って平成8年にサイクリングロードが完成しました。そして忘れもしませんが、湾内地区の覆道整備のきっかけになった土砂災害が平成11年に発生しています。私は人的災害だと思っていますが、山の木を切ったことにより山自体の保水力がなくなり、一帯に降った雨は当然下の方に流れますから、湾内地区では今まで水が出なかつたところから水が出たり、山肌が崩れている箇所もあります。50年に1度100年に1度の雨が降った時に、またそれ以上の雨が降った時に山肌が崩れる可能性があると、これを理解していただきたいと思います。避難すれば良いという問題ではなく、関係機関にもう一度検証していただき、土砂災害の備えをしていただき、と思うが再度考えを聞かせていただきたい。

町長 サイクリングロードとの因果関係は私には解り

質疑・質問は要約されています

議会だよりではスペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局にお問い合わせ下さい。



ませんが、地域懇談会等で地域の方からサイクリングロードの関係で土砂の流れが昔と違っているという話は聞いております。想定外ということとは考えられないわけでありますので、大雨による災害がいつ起こるかわからないという観点からも国、道、町と3者が一体となって検証しながら今後の沢、川のあり方を検証するよう要望を続けます。

行政報告

定例会12月会議において、町長より「利尻空港の利用状況について」ほか3件について行政報告がありました。

◎利尻空港の利用状況について

利尻・丘珠間（HAC）は、9月は往復1248人で搭乗率8%。10月は往復1664人で搭乗率74%。11月は往復1591人で搭乗率73%となりました。利尻・千歳間（ANA）は、9月は往復4079人で搭乗率55%。8%となりました。◎平成26年度上期観光客入込数の状況について 4月から9月までの入込数は12万3200人で前年より1万1900人（8.8%）の減少となっております。要因については台風、或いは大

雨によるフェリーや飛行機の欠航、キャンセル。貸切りバス値上がりによる団体ツアーの減などが考えられております。

◎鴛泊市街地道道拡幅に係る公共事業再評価について

稚内建設管理部より連絡があり、再評価については10月30日に公共事業評価専門委員会で継続は妥当と判断され、11月25日に道議会に報告がなされ継続が正式に決定されました。事業期間は当初平成27年度完成予定でありましたが、今回の評価で平成30年度完成予定になっております。今後、予定年度内で竣工できますよう要望を続けます。

◎低所得者燃料購入軽減補助費支給事業について

平成26年度に限り助成金を1世帯5千円引き上げ2万円を2万5千円に。1万円を1万5千円に。引き上げ助成することになりました。灯油価格が高止まりしている状況に加え、電気料金も再値上げされたことを踏まえ経済的負担が軽減されるよう見直しました。

定例会2月会議

【2月18日】

▽久保田喜雄議員の議員辞職の件について

久保田喜雄議員から議員辞職願が提出され、本会議において辞職許可がされました。

▽利尻富士町議会運営委員会委員の選任について

鬼脇字旭浜 佐々木 勝

▽利尻礼文消防事務組合議会議員の選挙について

鴛泊字栄町 伊藤 信勝



議 会 日 誌

12月

- 22日 利尻郡清掃施設組合議会
利尻郡学校給食組合議会

1月

- 3日 北見神社歳旦祭
4日 利尻山神社歳旦祭
平成27年成人式
5日 消防団出初式
9日 鬼脇老人クラブ潮流会新年交礼会
10日 鴛泊老人クラブ和友会新春の集い
11日 消防団活性化事業
16日 利尻富士町新春交礼会
27日 観光協会新年会

2月

- 1日 鴛泊婦人防火クラブ防火の集い
4日 全国離島振興市町村議会議長会理事会
平成26年度第2回総会、離島振興に関する
研修会 (東京都、議長)
14日 北海道議会議員「三好雅政経セミナー」
(豊富町、議長)
17日 利尻漁業協同組合大漁祈願祭
18日 第1回全員協議会
定例会2月会議

- 18日 第2回全員協議会
第1回総務民教産建常任委員会
20日 鬼脇婦人防火クラブ防火の集い
23日 全国離島振興市町村議会議長会役員懇親会
(鹿児島県中種子町、議長)
24日 全国離島振興市町村議会議長会役員会
(鹿児島県中種子町、議長)

3月

- 1日 利尻高等学校卒業証書授与式
5日 第1回議会運営委員会
11日 定例会3月会議(至13日)
第1回広報・広聴常任委員会
第3回全員協議会
13日 鴛泊中学校卒業証書授与式
鬼脇中学校卒業証書授与式
14日 武部代議士・吉田道議・三好道議を囲む
新春の集い (稚内市、議長)
16日 利尻郡学校給食組合議会
利尻郡清掃施設組合議会
17日 利尻礼文消防事務組合議会
利尻島国民健康保険病院組合議会
20日 利尻小学校卒業証書授与式
鴛泊小学校卒業証書授与式

議会議長あての文書は直接議会事務局へ

議会議長あての文書や案内状は、日程の調整をする必要がありますので、
直接議会事務局にお送りください。

■送り先：〒097-0101 利尻富士町鴛泊字富士野6番地
利尻富士町議会議長 前田 芳久
E-mail gikai@town.rishirifuji.hokkaido.jp

編集後記

冬に終わりを告げる時節となり、今冬は例年になく少雪でしたが、その分、羅臼町や中標津町など道東地域では毎週のように暴風雪が襲い、2年前9名の方々が犠牲になったような被害が出なかったことが何より安堵されるようです。

人間の英知を結集しても自然の猛威には無力で成す術がないと言われます。東日本大震災から4年が経ちましたが、大震災から十日経った日に行われた気仙沼市の階上中学校での卒業生の答辞が今でも共感を呼んでいます。文部科学白書にも掲載されましたので耳目された方もいると思いますが、その一部を紹介します。

「階上中学校と云えば、防災教育といわれ内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私達でした。しかし、自然の猛威の前には人間の力は余にも無力で、私達から大切なものを容赦なく奪って行きました。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし苦境にあっても天を恨まず、運命を耐え助け合って生きていくことが私たちの使命です。」震災の最中であって中学生の立派な答辞ではないでしょうか。利尻富士町地域防災計画が改訂されます。これから公表されると思いますが、防災力の向上が求められる今、日頃から地域住民が力を合わせて防災活動を継続的に実践することが重要だと思います。今、自助と共助が求められます。共助の連帯意識が高まればおのずと自助の研鑽も深まって行くのではないのでしょうか。

利尻富士町議会

広報・広聴常任委員会一同